

第3回 開催報告

| | | |
|-------|----------|-------------|
| （出席者） | 職 | 員：24名 |
| | 事 務 | 局：4名（総合戦略室） |
| | オブザーバー | ：1名（藤井市長） |
| | ファシリテーター | ：4名（ジャパン総研） |

1 次第

- 18：00～ 総合戦略室長あいさつ
第2回ワークショップの振り返りとまとめ方について
ワークショップ後の展開について
- 18：10～ グループワーク
優先的に取り組むべき施策（事業）を選定し、その選定された施策（事業）について、具体的な実施方法等を検討する。
- 19：40～ 各グループの成果発表
- 20：10～ 藤井市長より、全体の講評
閉会あいさつ、事務連絡

2 開催結果

（1）グループワークの発表

【Aグループ（20歳代、30歳代女性職員グループ）】

第2回ワークショップで重複していた意見が、「人」「環境」「魅力のあるまちづくり」であった。ハコモノを作るようなハード面のことではなく、ソフト面で何かできないだろうかという意見が主だった。過去のワークショップでも「若者」「子ども」「高齢者」などの“人”に注目していたり、環境をきれいにしていけないかということについての意見が多く出ていたりしたので、こういったことから、Aグループの3つの優先的に取り組む施策は、「高齢者と子ども・若者世代の交流促進」、「市民参加型の環境美化」、「小規模託児の場の充実」とした。

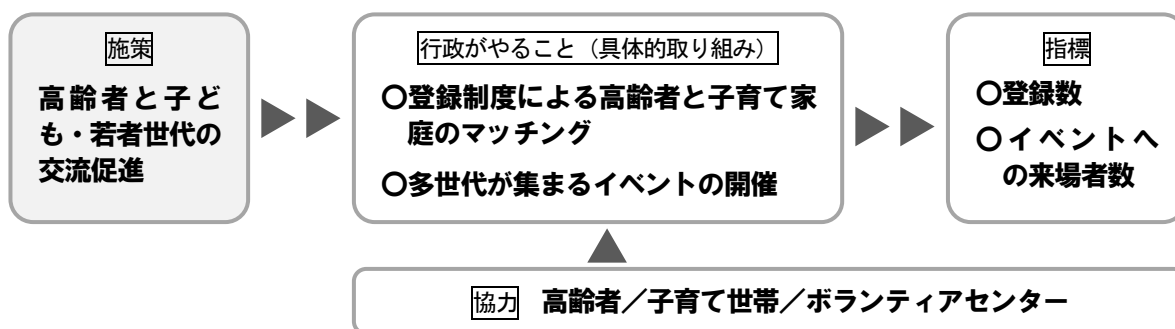


施策（事業）①「人との交流が元気の源 “高齢者と子ども・若者世代の交流促進”」

「人」に着目したものである。元気な高齢者が多いということと、働きたいお母さんがお子さんを預けるところがないということに関連させ、お母さんが働きやすい環境づくりにつなげた。行政としては、元気な高齢者の方々や子どもを預けたい親御さん方をつなぐ場として、登録制度のようなものを設けてマッチングさせたり、高齢者も子どもも参加できるイベントや場を設けてそこにみんなに集まってもらったりする機会を、行政が中心になってつくればよい。

そこで協力してもらうのは、高齢者の方々、子どもを預けたい親などである。他にもそういった場をつなぐ役割をボランティアセンターにお願いできないかという意見も出た。

指標としては、場をどれだけ設けられたか、イベントで来場者数がどれくらいあったかなどとする。



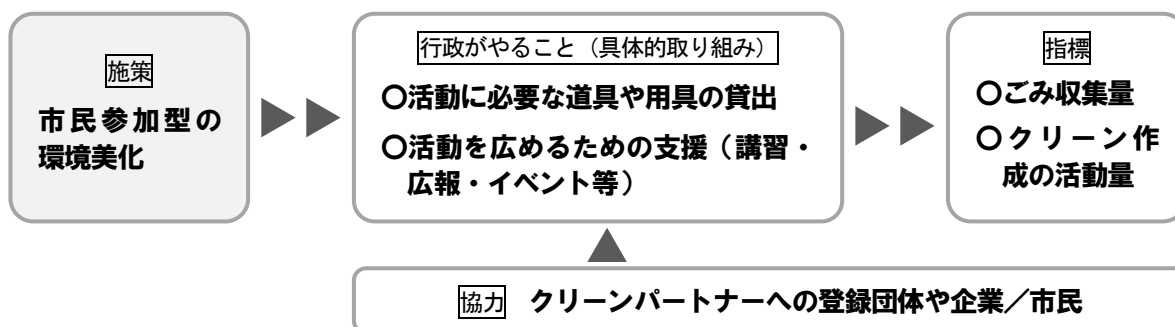
施策（事業）②「クリーンでグリーンなまちづくり “市民参加型の環境美化”」

市民参加型の環境美化活動はクリーン作戦としてすでに行われているが、さらに充実させるため、行政が一体となって担っていくという意見が出た。もう少し気軽に参加できるように、清掃活動に必要な道具や用具の貸し出しをすることで参加者や参加の機会をもっと増やし、より清掃活動を活発化させる。



クリーンパートナーへの登録団体や企業、清掃活動に参加したい市民の方に協力してもらい、清掃活動につなげていく。

指標は、ごみ自体を減らして環境美化につなげるということから、ごみの収集量の減少とした。また、活動の回数や登録団体数も指標とする。



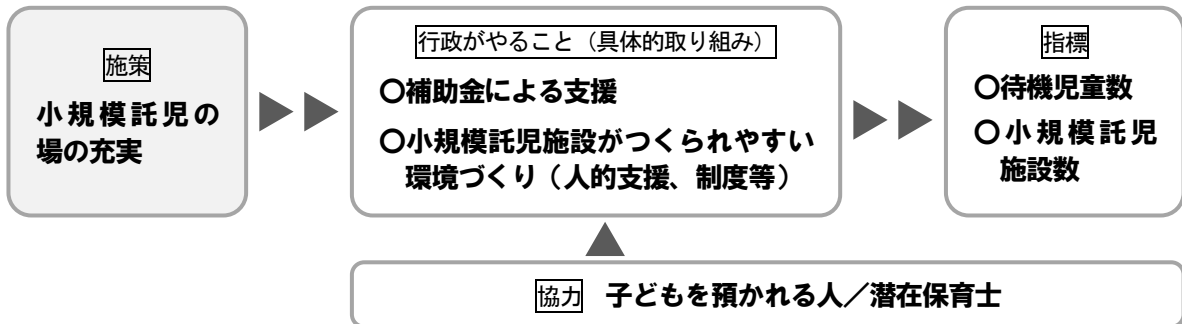
施策（事業）③「安心して預けられる “小規模託児の場の充実”」

最初は「小規模託児施設の整備」としていたが、ハコモノをつくるのではなく、人が動きやすいしくみをつくるということを重視して、「小規模託児の場の充実」と修正した。

子どもを預けて働きに出たい親や、反対に子どもを預かって仕事にしたい人もいると思うので、そういう方々に機会を設けられたらいいのではないかと。そのためには、環境づくりとして補助金を出したり、どうやってやったらいいのかというシステムや制度、方法を伝えたりする職員などの人的補助が必要である。場がないということであれば、こういう場があるという情報を提供したり、託児ができる環境づくりをしやすいように行政が手助けをしたりする。

子どもを預かれる人や、潜在保育士などの協力が必要である。

その成果として、待機児童数の減少につながり、これをきっかけに小規模託児施設が増加するのではないか。



【Bグループ (20歳代男性職員グループ)】

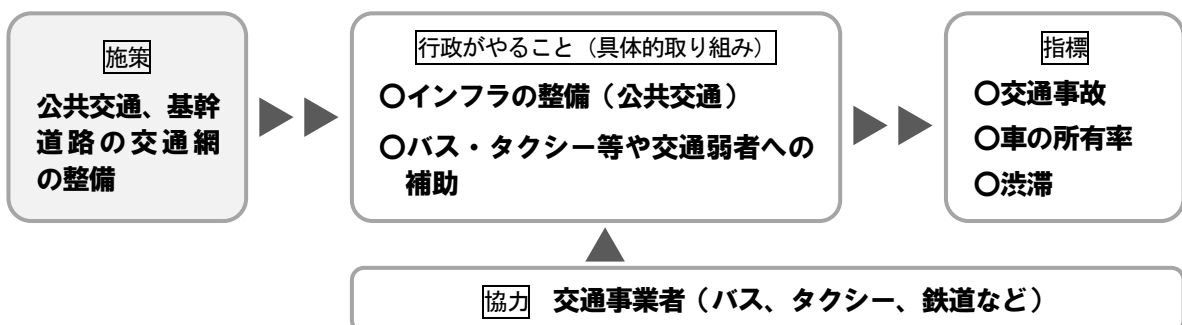
Bグループは、どういうまちにしていこうか、再認識することからスタートした。その中で出てきた意見は「自由に時間を使える」ということだった。自分たちの40数年後は、やりたいことに時間を使える時代になってほしい。また、悲しいことが少なく、できるだけ悲しいことが起こらないようになってほしいと思った。そういった認識を基に、何が必要なのかということを考えてスタートした。



施策(事業)①「公共交通、基幹道路の交通網の整備」

「公共交通・基幹道路の交通網の整備」という堅い言葉になっているが、例えば、コンパクトシティという考え方もあると思う。今、事故が大きな問題になっているのはなぜかと言えば、みんなが自由に車を使っているからである。どうしたら事故はなくなるのだろうか。道路環境などをもっとスマートな構造にすることや、道路の作り方を考えてみることも大切ではないか。

指標については、公共交通で言えば、まちのコンパクト化や公共交通がうまくいっていれば、走る車が少なくなっているだろう。そして事故も少なくなっている。さらには渋滞もないということになる。こういう指標を達成するために、行政はインフラを整備する必要があるが、市がすべてを行うことは難しいので補助金を出す。公共交通で言えば、自分達で使う道具(車)が少なくなることから、それを補うタクシー、交通弱者と言われていたり人、運んでくれる人への補助を行う。このためには交通会社などに協力を求める必要がある。



施策（事業）②「インターネット接続環境の整備」

施策（事業）③「大人・子どもへのICT教育の推進」

「インターネット接続環境の整備」と「大人・子どもへのICT教育の推進」と分かれているが、実は2つで1つである。

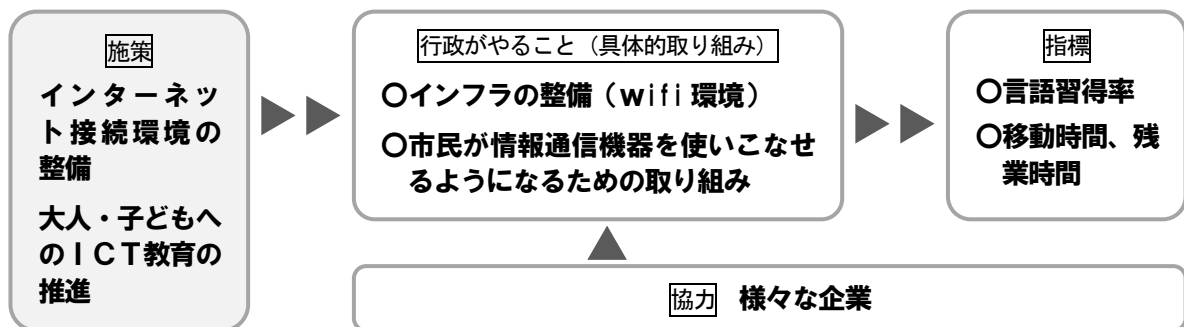
人の力には限界があるため、そろばんを使っている時代の方が、他の何かに費やす時間が短かった。40 数年後というのは、人を助ける道具や仕組みが非常に発達し、それを活かすことができれば自分達に費やせる時間が増えるのではないかと思った。今から美濃加茂市がそこに力を入れていけば、40 数年後、市民一人ひとりが、したいことができる自由な時間を持っている、そういう社会にできるのではないか。



まずはハード面の整備が必要である。しかし、ハードを整備しただけでは人は使いこなせないため、使い方などに興味をもってもらえれば、自分で進んで勉強するようになるし、使いこなせるようになる。未来は自分の自由な時間をつくることのできる時代になっている。そういう風にするのが大切だと思った。

現在は自分の時間が何かしら削られているが、ICTが発展して自宅で仕事ができれば移動時間がなくなる。残業時間も減らせる。これだけインターネットが発展して色々な人とつながれるようになると、趣味などが合う人ともっと話がしたくなってくる。自然に色々な人とつながりたいと思うようになって、「中国語を勉強しよう」「英語を勉強しよう」ということにもなるため、言語習得率 100%を指標とした。

インターネット系も含めて、自分達だけでやるのは限界があるので、色々な企業も含めて全体でやらないと達成できない。自分の時間を大切にできる市、幸せになれるような市を目指してこれらのことに取り組んでいけばいいと思った。



【Cグループ（30歳代男性職員グループ）】



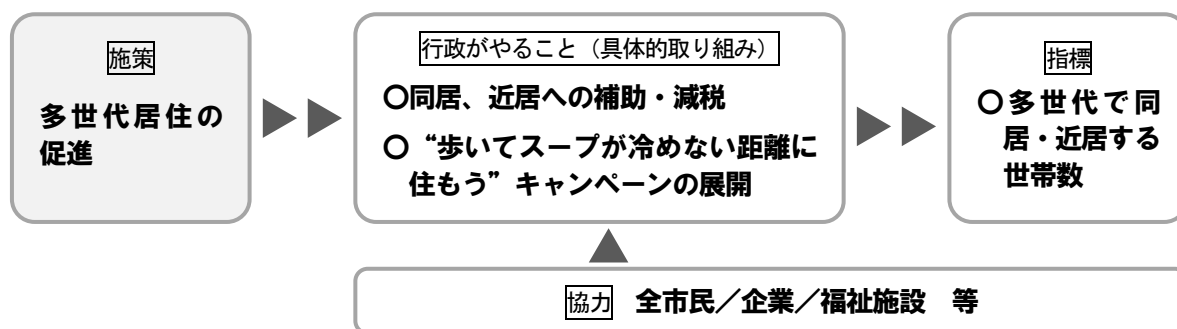
テーマは、「多世代居住の促進」「自然遊びを学ぶ機会づくり」「従来の枠にとらわれない公共物の利活用」の3つを選んだ。この3つの関係性を考えると、最終結論は「多世代居住の促進」であり、その手段としてソフト面の「自然遊びを学ぶ機会づくり」、ハード面の「従来の枠にとらわれない公共物の利活用」がある。この両輪で最終的には多世代が仲良く暮らす美濃加茂市をつくっ

ていきたいという結果となった。ここで“公共物”となっている言葉は、当初は“公共施設”だったが、私達はもう少し広く考えて、公民館や学校などに加え、道路や河川、山なども含めてあえて“公共物”と言い換えた。

施策（事業）①「多世代居住の促進」

多世代同居と言っても一緒に住むというのはなかなか難しい。行政としては、多世代が同じ地域に住んでいることに対して減税したり、補助金を出したりすることが考えられる。

話し合いの中で“歩いてスープが冷めない距離に住もう”というフレーズが出てきた。そのようなフレーズなどを活用して市がイベントを組んだり表彰したりするのはどうだろうか。子どもも楽しいし、高齢者も生きがいがある。子どもたちは、「こんなに楽しいのなら年を取っても美濃加茂市にずっと住みたい」と思うだろうし、高齢者の方も住んでいて良かったと思える。今、仕事しかなく生きがいとは何だろうと悩んでいる人に、美濃加茂市に来てもらえばこういう生き方ができるということを示す。人口も増え、定住者も増える。人が集まればお店も増えて、様々な分野への波及効果も大きいのではないかと結論である。

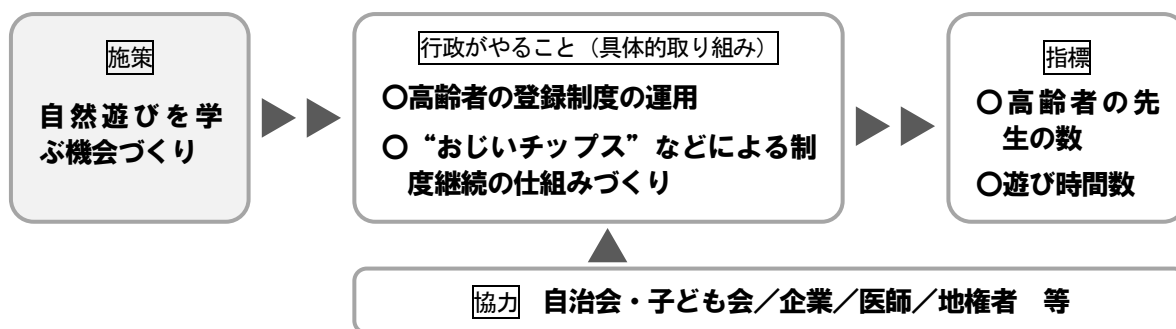


施策（事業）②「自然遊びを学ぶ機会づくり」

当初は、子どもたちにもっと自然とふれあってほしい、もっと山や川に行っているような遊びをしてほしいと考えた。ただ、子どもたちに「さあ遊べ」と言ったところで、なかなか遊べるものではない。自然の中での遊び方を知らない子どもたちが多い。そこで出てくるのが、“山のおじい・おばあ” “川のおじい・おばあ”である。この人たちを活用しようと考えた。子どもたちはおじいさんやおばあさんから昔の遊び方や知恵を教えられるし、高齢者は子どもたちとふれあうことで、自分の知識や経験が活かされ、生きがいにもなる。お互いに win-win の関係になるので、世代間の交流もどんどん広がるのではないかと考えた。



しかしこれだけでは長続きしないので、おじいさんやおばあさんにインセンティブを与える必要があるのではないかと考えて開発したのが、プロ野球チップスのような“おじいチップス”である。おじいさんやおばあさんを登録制度にし、市が情報を整理してカード化する。子どもはそのカードを集める。高齢者は自分の人気を高めるために、より一生懸命活動に取り組むようになる。そうなれば、世代間交流が継続していくのではないかと考えた。

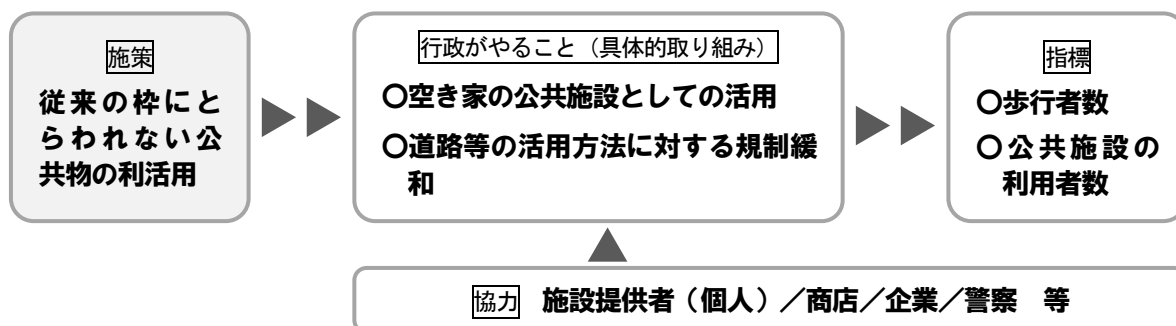


施策（事業）③「従来の枠にとられない公共物の利活用」

既存の公共施設の目的をもっと広げることが必要である。今、空き家問題があるので、既存の空き家を市が買い上げ、指定管理として家族に運用を任せるなどである。

道路の場合は様々な規制があり、できないこと、やってはいけないことなどが条例には書いてある。しかし、もっと「こういう利用ができる」「こういう使い方はどうでしょうか」といった提案ができるようになればよいのではないかと考える。

指標は歩行者の数や公共施設の利用者数とし、美濃加茂市民が外に出て、いろいろな人とふれあうことを指標にすればよいと考える。



【Dグループ（40歳代、50歳代職員グループ）】

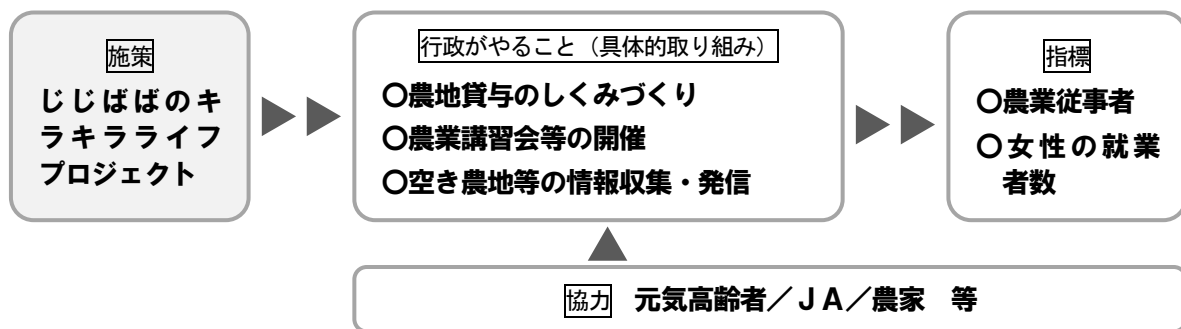
私達のグループは、高齢者や公共交通といったことがメインとなった。また、やはり今回の「まち・ひと・しごと創生」というテーマでは「ひと」「しごと」というところに特にターゲットを絞った。



施策（事業）①「じじばばのキラキラライフプロジェクト」

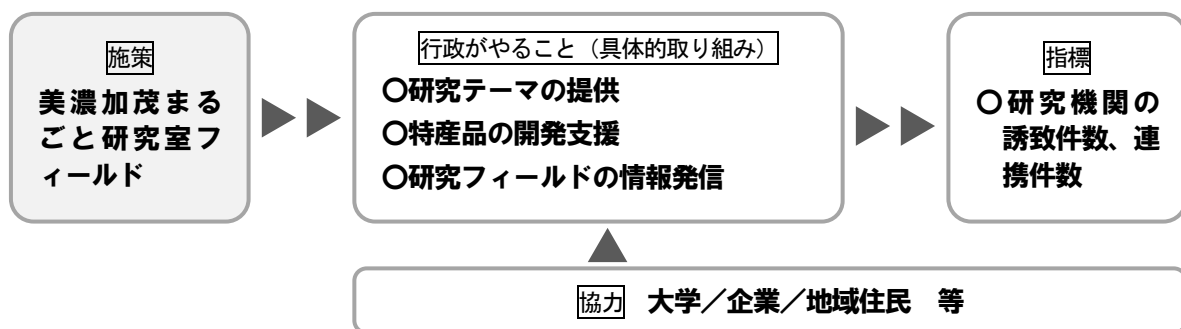
「じじばば」というとどうしてもお年寄りに目がいってしまうが、この中には母親たちの活躍する場や就労の場という視点も隠れている。できれば、元気なお年寄りにもっと活躍してもらいたい。活

躍する場として農業や空き家を活かしていこうと考えた。



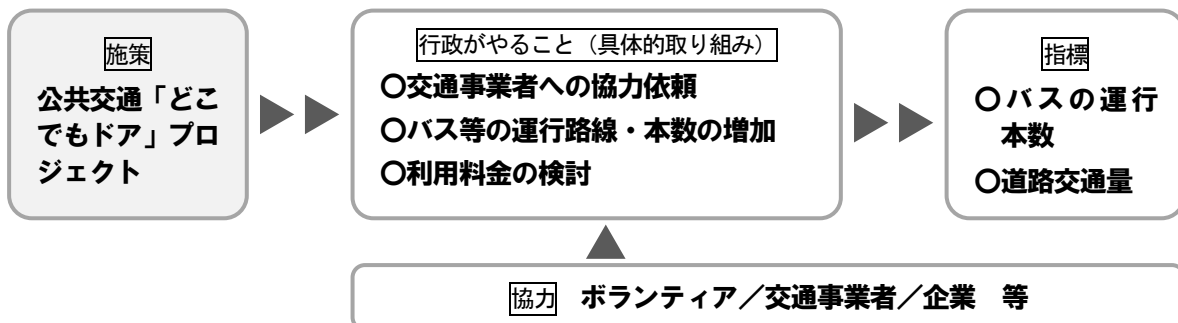
施策（事業）②「美濃加茂まるごと研究室フィールド」

美濃加茂市は非常に自然が豊かで、水がきれいであるし、食品メーカーがある。ここに足りないものは研究機関である。つくるところはあるし、高校は加茂農林がある。それらを活かしてここに研究のフィールドを持ってきたい。山があり川がある環境、地域全体を研究機関にしたいということで「美濃加茂まるごと研究室フィールド」を提案した。



施策（事業）③「公共交通「どこでもドア」プロジェクト」

地域で定住することを考えると、どうしても公共交通が必要である。そこで、「どこでもドアプロジェクト」という名前をつけ、公共交通の充実を図りたいと考えた。中心部と地域・遠隔地をつなぐことや、ネットワーク化をしていくということである。



全体について言えることとして、行政がすべきことは、情報をしっかりと把握することである。例えば、誰かに「美濃加茂市内に空き家がありますか」と聞かれても、空き家の数が答えられない。行政が持っている情報を、使いたい人に対して発信していく。行政だけではなく、大学や企業、団体、市民の力を借りて発信していくことが必要である。

(2) 優先的に取り組むべき事業への投票

【Aグループ (20 歳代、30 歳代女性職員グループ)】

| 取り組む施策 (案) | 合計得点 |
|---------------------------------------|------|
| ⑦人との交流が元気の源「高齢者と子ども・若者世代の交流促進」 | 11 |
| ⑨クリーンでグリーンなまちづくり「市民参加型の環境美化」 | 8 |
| ⑪安心して預けられる「小規模託児施設の場の充実」 | 8 |
| ⑬何度も来たくなる・よそとは違う「観光イベントの企画・開催」 | 8 |
| ①いろいろな職場が選べるようになる「多様な業種の企業誘致の推進」 | 5 |
| ②センスが光る店が集まる「優良店・優良飲食店の誘致・誘導」 | 5 |
| ③子どもたちが暮らしたくなる「ふるさと教育の推進・ふるさとの魅力アピール」 | 3 |
| ⑫子育て家庭にやさしい職場、働き方のための「企業の理解促進」 | 3 |
| ⑤体を使って子どもたちが遊べる「冒険遊び場・公園づくり」 | 2 |
| ⑭美濃加茂市の歴史を感じる「中山道を活かした景観・風景づくり」 | 1 |
| ④子どもたちに遊び方を伝える「自然遊びを学ぶ機会づくり」 | — |
| ⑥地域でつくる安心な暮らし「地域コミュニティでの見守り活性化」 | — |
| ⑧高齢者自身のパワーを活かす「高齢者の趣味活動の活性化」 | — |
| ⑩まちのお宝掘り起こし「地域資源を活かした特産品開発」 | — |
| ⑮美濃加茂市の観光 PR「まちの魅力の全国・世界発信」 | — |
| ⑯交通事業者との連携で行う「公共交通の充実」 | — |
| ⑰エコでスマート「自転車が快適に走れる道路環境づくり」 | — |

【Bグループ (20 歳代男性職員グループ)】

| 取り組む施策 (案) | 合計得点 |
|--------------------------------------|------|
| ⑨市へのアクセスをスムーズに「公共交通・基幹道路等の交通網の整備」 | 11 |
| ⑮市内どこでも世界とつながれる「インターネット接続環境の整備」 | 11 |
| ⑭市民の情報通信技術レベルが高いまち「大人・子どもへのICT教育の推進」 | 8 |
| ⑪若者の自発性を高める「高校生の自主活動・政策決定の場への参加拡大」 | 3 |
| ⑤市内各地区の特性を活かした「地区別テーマ型まちづくりの推進」 | 1 |
| ⑥多文化共生・国際化への対応「看板、情報、店舗等の多言語化の推進」 | 1 |
| ⑬健康を守るために「食生活・運動などの健康な生活習慣の定着促進」 | 1 |
| ①儲かる、稼げる「美濃加茂市独自の経済政策の推進」 | — |
| ②まちなか、住宅地など「空き家・空き店舗の有効活用」 | — |
| ③未来の可能性をつかまえる「起業支援の促進」 | — |
| ④ショッピングモールやアウトレットなど「大型商業施設の誘致」 | — |
| ⑦市内の効果的な場所への配置「集客施設・店舗・飲食店の誘致」 | — |
| ⑧お金をまわす仕組みづくり「既存施設・商店への誘客促進」 | — |
| ⑩学生と一緒に活動する「大学生との協働事業・イベント等の推進」 | — |
| ⑫医療機関にかかりやすくなる「医療費無料化の拡大」 | — |

【Cグループ（30歳代男性職員グループ）】

| 取り組む施策（案） | 合計得点 |
|--------------------------------------|------|
| ⑦子どもたちに遊び方を伝える「自然遊びを学ぶ機会づくり」 | 19 |
| ②お互いに補完し合える「多世代居住の促進」 | 10 |
| ⑮施設のあり方を見直す「従来の枠にとらわれない公共物の利活用」 | 6 |
| ④身近な地域で顔の見える関係づくり「近所付き合いの活性化」 | 5 |
| ⑬周りの見本になる「ワークライフバランス先進企業の育成・誘致」 | 5 |
| ⑫“農”が身近なライフスタイル「市民の農業・家庭菜園等の促進」 | 4 |
| ⑩人が集まるしかけづくり「交通機関・歩道の利活用」 | 4 |
| ⑰チャレンジしやすい仕組みづくり「美濃加茂市内への新規出店・開業支援」 | 1 |
| ①いろいろな職場が選べるようになる「多様な業種の企業誘致の推進」 | — |
| ③今あるストックを活かして「既存住宅のリフォーム・リノベーションの推進」 | — |
| ⑤コミュニティ組織の役割を見直そう「地域活動団体の活性化・組織化」 | — |
| ⑥残すべき自然・環境を見つめる「環境保全・開発等の方針の明確化」 | — |
| ⑧クリーンでグリーンなまちづくり「市民参加型の環境保全・環境美化」 | — |
| ⑨体を使って子どもたちが遊べる「冒険遊び場づくり」 | — |
| ⑩センスが光る店が集まる「優良店・優良飲食店の誘致・誘導」 | — |
| ⑪迎え入れる側の意識づくり「市民のおもてなしの心育成」 | — |
| ⑭地域に力を「地域分権・地域自治システムの構築」 | — |
| ⑯いろいろな人が来て・遊び・憩える「魅力ある公園づくり」 | — |

【Dグループ（40歳代、50歳代職員グループ）】

| 取り組む施策（案） | 合計得点 |
|--|------|
| ⑤世代間交流を基本とした「じじばばの居場所づくり」 | 11 |
| ⑥産学官連携でつくる食・森林文化「美濃加茂市の特性を活かした研究機関の誘致」 | 8 |
| ⑯市民の大切な足「あい愛バスの充実」 | 7 |
| ④楽しんでいきいきと稼ぐ「高齢者の就労支援・モデル事業の実施」 | 5 |
| ⑬チャレンジしやすい仕組みづくり「美濃加茂市内への新規出店・開業支援」 | 5 |
| ②農業を始めたい人へのサポート「農業講座の開催・農地貸与の仕組みづくり」 | 3 |
| ⑮身近な場所で買い物できる仕組み「空き家を活用した“よろずや”づくり」 | 3 |
| ①既存の農地、空き地などを使った「効率的な農地の利用促進」 | 2 |
| ⑨体を使って子どもたちが遊べる「冒険遊び場づくり」 | 1 |
| ⑩通学の時間、雨の日も活用「街中を子どもの遊び場にするための環境整備」 | 1 |
| ③エコな生活促進「自然エネルギーの導入に向けたインセンティブの付与」 | — |
| ⑦ここでしかできない教育「美濃加茂市の高等教育文化の醸成」 | — |
| ⑧活動の核になる「リーダーになる人材育成の推進」 | — |
| ⑪未来のグローバル人材を育てる「学校における外国語教育の充実」 | — |
| ⑫身近な外国人市民との交流「地域や企業との協働で行う多文化共生」 | — |
| ⑭ショッピングモールやアウトレットなど「大型商業施設の誘致」 | — |

(3) グループワークの結果

【Aグループ（20歳代、30歳代女性職員グループ）】 ○：指標、△：行政、◇：協力

施策（事業）①「人との交流が元気の源 高齢者と子ども・若者世代の交流促進」

- 指標** ○イベント来場者数 ○登録者数 ○学童参加、高齢者の増加
- 行政** △登録制度、マッチング制度 △学童の高齢者斡旋
△昭和の遊び講座を設ける △健康の森でボランティアを募る
△子ども・若者とふれあいたい or 高齢者とふれあいたいと考えている人が気軽に参加できる場を設ける
- 協力** ◇元気な高齢者 ◇一人ぼっちの人と時間に余裕のある人
◇子どもを預けたい親 ◇ボランティアサポートセンター（無償のとき）
◇市民団体（高齢者）

施策（事業）②「クリーンでグリーンなまちづくり 市民参加型の環境美化」

- 指標** ○ゴミの収集量の減少 ○環境美化した活動エリア
○クリーン作戦を、もっと定期的に増やす
○クリーン作戦を増やすこと。街全体が掃除する日
○登録団体数 ○活動回数 ○エリアごとの参加者数の増加
- 行政** △登録団体の管理 △クリーンパートナー
△活動に必要な道具・用具の貸し出し △道具の講習（草刈り機とか）
△様々な媒体を使用したイベント・広報活動
△清掃活動を広める取組、イベントをつくる
- 協力** ◇市内事業所、市内企業、市内サークルなど市内で活動している団体
◇高校生、中学生、小学生が中心のゴミ拾いに親も市民も参加
◇小森産業、橋本 ◇市民の方、企業の方

施策（事業）③「安心して預けられる小規模託児の場の充実」

- 指標** ○待機児童数の減少 ○託児施設数の増加
- 行政** △団体への補助金 △団体への人的補助
△施設をつくりやすくなる制度、場所（空き家とか）の提供
- 協力** ◇子どもを預かりたい人。私設幼稚園
◇潜在保育士
◇子どもを預かることのできる人

施策（事業）①公共交通、基幹道路の交通網の整備

- 指標** ○交通事故ゼロ
○渋滞ゼロ
○車の所有率ゼロ
- 行政** △CO₂の確定申告
△インフラ整備（情報、補助金）
△買い物バスの運行
△道路等の整備にかかる費用を公共交通の補填に
- 協力** ◇まち協でのバス運行（生協とかも）
◇鉄道会社、バス会社、タクシー会社

施策（事業）②インターネット接続環境の整備

- 指標** ○移動時間でできればゼロ
○残業時間ゼロ
- 行政** △Wifi 基地をそこらじゅうに設置
△インターネットのメンテナンス強化 → 使いやすいネットの整備
- 協力** ◇NTT西日本
◇各企業

施策（事業）③大人・子どもへのICT教育の推進

- 指標** ○言語習得率（2か国語）100%
- 行政** △学校情報課をつくる（情報学習のスペシャリスト集団）
△全小学校にiPad 導入
- 協力** ◇専門知識を持った人のボランティア（高齢者も若者も）

施策（事業）①「多世代居住の促進」

- 指標** ○3人以上でコミュニケーションをとっている人の割合：4h/週（アンケートから）
 ○家族の入院者数/家族の人数 ○市内に住む多世代世帯数（近居含む）
 ○敷地内3世代同居の家族数 ○多世代世帯数増加
 ○市全体の同居家族数/世帯数 ○世代間の距離を数値化する
- 行政** △PR。ワークライフバランス △多世代に補助金。リフォーム代など
 △歩いてスープが冷めなかったら、地域振興券がもらえる
 △3世代同居で10年住んだらお祝いを出す。20年住んだらさらに…
 △同一敷地内で複数世帯が居住する場合の固定資産税の減税
- 協力** ◇ワークライフバランスの協力（企業が） ◇企業。単身赴任手当のカット
 ◇全員 ◇老人ホーム（撤退） ◇保育園（減少） ◇洗濯屋

施策（事業）②「自然遊びを学ぶ機会づくり」

- 指標** ○年下の子どもに遊びを数えられるリーダーの数 ○子どもが家の外で遊ぶ時間数
 ○自然テスト、地域テストでの子どもの点数UP ○自然エリア滞在時間
 ○山と川のおじい登録（免許、登録制度） ○自然教室数
 ○おじい先生の数 ○山のおじい、川のおばあの方の葬式に来た子どもの数
- 行政** △学校の授業時間に遊びの時間を入れる △放課後里山教室開設
 △地域のおじい選手権 △おじい・おばあ名鑑
 △おじい・おばあチップス（カード付） △おじい・おばあ登録制度の運用
 △山のおじい・川のおじい募集 △おすすめの山・川スポット紹介
 △自然エリア設定 △場の整備（提供）
- 協力** ◇自治会 ◇子ども会 ◇地域の人（山、川のおじい） ◇地権者
 ◇アウトドア系の企業 ◇市民の参加。みんなで見に行く ◇医師

施策（事業）③「従来の枠にとられない公共物の利活用」

- 指標** ○公共施設の利用回数 ○公共施設利用率 回数/月 ○公共施設への入込数
 ○施設新規利用者数/利用者数 ○歩行者の数 ○空き家のおじい教室利用の数
 ○健康の森の入場者数増加 ○公共施設の整備（各種） ○空き家対策
 ○利用可能公共施設数（面積） ○車進入禁止エリア面積
 ○イベント開催後の滞在時間
- 行政** △空き家の買取 → 公共施設化（指定管理） △施設の魅力的な改修
 △ポイントカード。この日は2ついくと倍。溜まると特産品がもらえるなど
 △「●●禁止」の禁止 △利用者がルールを決める △規制緩和
 △市民が求める公共施設調査 △使い方提案 △歩行者天国道路規制の緩和
- 協力** ◇商店の人 ◇個人施設提供者 ◇道路管理者（国、県）
 ◇セミナービジネス企業 ◇警察（公安委員会？）
 ◇車道の廃止。歩道へ ◇露天商

施策（事業）①「じじばばのキラキラライフプロジェクト」

- 指標** ○農業従事者の増加 ○農業をしたい人が増える
 ○市街地の気温上昇率、対多治見比 5%down ○合計特殊出生率全国 1 位の市
 ○老人の健康が促進される事による老人医療費の減
 ○理想型人口ピラミッド近似値 50% ○耕作放棄地、5 年後 10%↓、10 年後 50%↓
 ○加茂農林高校生の市内農業就労数 100 人（5 年後） ○農業生産量の増加
 ○老人が子どもたちに農業を教える機会 ○老人が農業を教えるスクール
 ○高齢者による農業支援件数 ○老人による放課後保育施設数
 ○じじばばに子どもをみてもらいたい若いママたちが増える
 ○老人と子どもが一緒に過ごせる場所 ○働く女性（母ちゃん）の割合 20%up
- 行政** △農地貸与の仕組みづくり △貸し農地&休憩場所
 △市営住宅優先入居。保育園に茶飲み場スペースつくる
 △高齢者による農業講習会の開催 △情報の収集と発信。空き農地など
- 協力** ◇農業プロフェッショナルなじじばば ◇農協健寿会
 ◇元気なじじばば ◇高齢農家、世代交代した農家、JA

施策（事業）②「美濃加茂まるごと研究フィールド」

- 指標** ○ケアコミュニティハウス畑一体型増床。対 2015 年、5 年後 10%UP、10 年後 30%UP
 ○研究機関との連携件数 ○アカデミーや研究所の誘致件数
 ○大学、アカデミーの研究フィールドに誘致する
 ○美濃加茂企業食の特許申請数。上昇率年比 2%→5%up
 ○ここでしかできない教育の件数
- 行政** △研究フィールドにしたいような資源をつくる △研究テーマの提供
 △研究できる場でイベントを開催して、美濃加茂市を知ってもらう
 △特産品の開発支援 △行政が営業マンに
- 協力** ◇地域住民の協力。一緒にキレイにする ◇大学、企業

施策（事業）③「公共交通「どこでもドア」プロジェクト」

- 指標** ○運行数（日）を増やす。（毎日 15 分おき） 主要場所はすべてまわる
 ○運転免許証の返納率全国トップ ○夜間開業する店の件数
 ○道路交通量の減少。交通事故の減 ○バスによる新しいにぎわいの数
 ○利用率の増加
- 行政** △バス、タクシーの協力依頼 △運行路線、運行本数の増加
 △利用料金の低額化
- 協力** ◇企業だけでなく運転してあげるボランティア運転手さん
 ◇工業団地企業とのタイアップ ◇タクシーやバス会社の交通事業者

3 全体講評（藤井市長）

第1回目のワークショップでは、各テーブルをまわって誰がどのような発言をしているのかを楽しみに聞かせていただいた。しかし今日は、プレゼンを見て私自身がどう感じるかというところを大切にしたいと思い、あえて検討過程を聞かなかった。プレゼンを聞いてみて、よくわかったものもあればわからなかったものもあったが、少し思ったことを発言させてほしい。



CグループやDグループの方々には経験があるので、具体的な提案がはっきりしていると思った。考え方、やり方、最終的に持っていく方向性がしっかりできていた。AグループやBグループの方々には、これまでこういう機会がなかったのだろうと思う反面、発想がまったく違って、勉強になる部分があった。地方創生に限らず、ぜひ今日のような企画を各課や各部でして欲しい。現場の感覚なくして市民が求める政策、将来を語る政策ができないのは間違いない。

Aグループは、観点としていいと思ったが、最後の具体案が欠けている。実際に現場はどうやって動くのかというのが難しかったのではないかと。今後は、どれくらいの市民が参加すればまちがきれいになるのか、市民の気持ちが変わるのか、具体的にどのような仕掛けをすれば今まで無関心だった人を引き込むことができるのかということまで、視野に含めてほしい。政策決定者側からすると、理論で返事ができなくなった場合、現場からより具体的な提案があると言えれば進めやすくなる。観点は面白かったので、具体的な提案を出してきてもらえるといいと思う。



Bグループは、自分達の時間を大切にするためにどういうことをするのか、という発想は面白いと思った。しかしその中で、削った時間をどう使うのかという意見を聞いたかった。ICTの話では、ICTが発展しすぎたために本来あるべき家族の会話や、外で遊ぶ時間、勉強する時間が削られてしまっているという現状と向き合っていないといけないので、そういったところも皆さんに研究して欲しい。私は科学技術というものに対して逆らうべきではないと思っている。本質を忘れないで研究して欲しい。ICTについては知識も必要になってくるし、皆さんの発想と世代の強みを活かしてほしい。

Cグループは、一番いいと思った。具体的な提案があるので、ぜひ続けてほしい。今、市として学習広場があるが、さらに踏み込んで行政しかできないことと言うと、いかに自由度を広げて公共物を利用できるかである。できない規定ではなくできる規定を広げていけば、そこから新しいアイデアも出てくると思うし、「歩いてスーパの冷めない距離に住もう」という発想をこれから公共交通に取り入れてもらうと何か新しい発見があるかもしれないと思った。また、「おじいちゃんおばあちゃんカード」のアイデアは、市役所に「職員カード」があってもいいかなと思うくらいである。地域で生きていく生きがい、やりがいにつながるのではないかと。

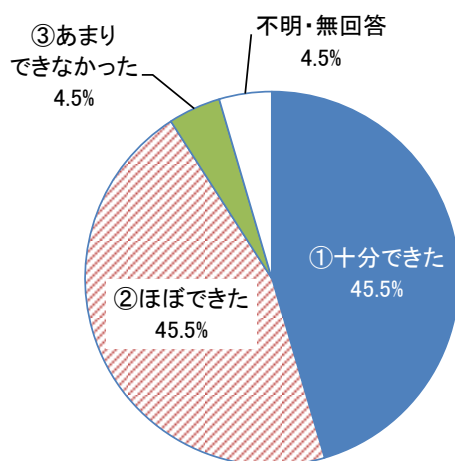
Dグループは、「美濃加茂まるごと研究フィールド」は面白いし、すぐにでも実行してほしいと思った。また、「公共交通「どこでもドア」プロジェクト」もぜひ取り入れてほしいと思った。行政が情報を把握し、マッチングできるようにしなくてはならないという点については、私もまだまだ足りないと思っている。各部・各課広げて、市民の方々からフィードバックを共有することをお願い

いたい。

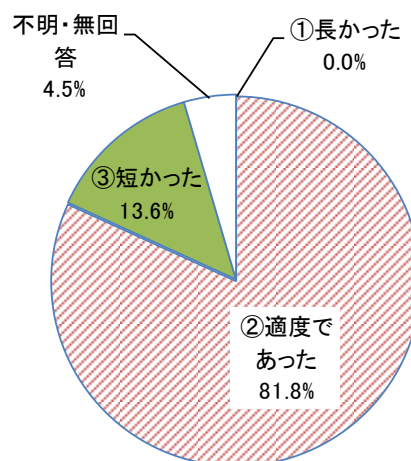
3回のワークショップでこれだけの具体的な提案が出るということにとっても驚いた。今度は、もっと絞った提案を私達の方からさせていただいて、有志の職員に集まってもらい、場合によってはプロジェクトチームをつかって、人事異動も含めて考えられるような機会をつくっていきたいと思っている。今日集まってもらった前向きな職員の皆さんが、自由に堂々と活躍できる美濃加茂市役所にしていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。ありがとうございました。

4 参加者の意見・感想

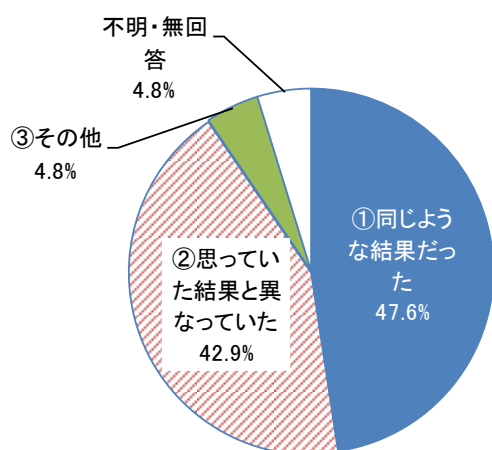
【ワークショップでは十分に発言できましたか】



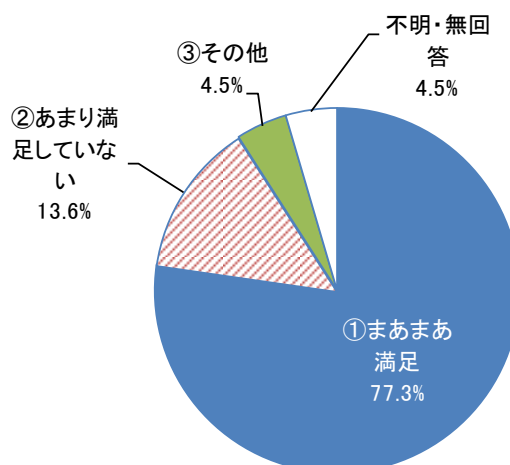
【ワークショップの討議時間はいかがでしたか】



【ワークショップでの検討結果は、あなたが思っていたのと同じような結果でしたか】



【ワークショップの検討結果はいかがでしたか】



【ワークショップでの検討結果は、あなたが思っていたのと同じような結果でしたか】

・結果的に複数の案を取りまとめた意見となった。

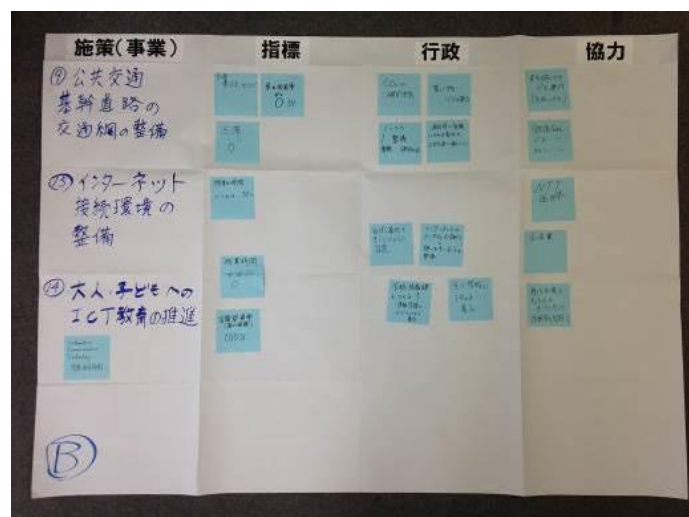
【その他意見】

- ・次回もこのようなかたちでプロジェクトチームやワーキングがあったら参加したいです。
- ・もっと多くの意見と時間を使い、具体案につなげられると良いですね。
- ・いろんな世代の意見を集約しながら、魅力的な戦略になればいいと思います。
- ・こういった議論や討論が自由にいろんな場所で気軽にできる環境を整えてほしい。
- ・様々な事業、総計との違いが見えにくいです（優先順位）。
- ・できるだけ多数の意見を取り入れた計画として下さい。
- ・途中（ほぼ終わりかけ）の参加で申し訳ありませんでした。3回のワークショップで、若い子たちの考えを聞いて参考になりました。
- ・今回のワークショップで、同じ職員でもさまざまな意見が出て大変参考になりました。これからもこのような機会が全職員でやれると良いと思います。
- ・総合戦略ができあがる前にワークショップメンバーが全員見ることができるといいと思います。

【Aグループ（20歳代、30歳代女性職員グループ）】



【Bグループ（20歳代男性職員グループ）】



【Cグループ (30 歳代男性職員グループ)】



【Dグループ (40 歳代、50 歳代職員グループ)】

